

副論文Ⅱ

作業バランス質問紙(Occupational Balance Questionnaire)の
翻訳と言語的妥当性の検討

東京都立大学大学院

人間健康科学研究科 博士後期課程 人間健康科学専攻

作業療法科学域

学修番号：20996704

氏名：山田 優樹

(指導教員名：小林 法一 教授)

要旨

作業バランスは、これまでの作業療法の歴史における最も重要な概念の中の1つである。本研究の目的は、スウェーデンで開発された作業バランスの尺度である Occupational Balance Questionnaire (OBQ) を翻訳し日本語版 OBQ の言語的妥当性を検討することであった。方法は、Beaton らの自己報告尺度の異文化適応プロセスのためのガイドライン及び Epstein らの推奨に準拠して行った。結果、原版の項目の意図を保ちつつ、我が国の文化に適した 11 項目の日本語版 OBQ が開発され、言語的妥当性が高まった。今後は、信頼性および妥当性の検討が望まれる。

キーワード

作業バランス， 尺度， 言語的妥当性， 作業科学

Abstract

Occupational balance is one of the most important concepts in the history of occupational therapy. The purpose of this study was to develop and verify the feasibility of the Japanese version of the Occupational Balance Questionnaire (OBQ-J). The OBQ-J was developed according to the guidelines for the process of cross-cultural adaptation of self-report instruments and the recommendations of Epstein et al. As a result, eleven items were developed that were appropriate to the Japanese culture while maintaining the intent of the items in the original version, and the linguistic validity of the OBQ-J was confirmed. Further study is warranted to investigate the reliability and validity of the OBQ-J.

Keywords

Occupational Balance, Scale, Linguistic validity,
Occupational Science

はじめに

作業療法では，昔から日常生活を構成する作業の適度なバランス (Occupational balance; 以下，OB) が健康に影響すると考えられており，これを評価する概念枠組みや測定ツールが存在する．古典的には Meyer¹⁾ が提唱した仕事，余暇，休息，睡眠のバランスが有名である．海外では，これまでに複数の尺度が開発され，健康との関連性が報告²⁾されている．わが国においても小林³⁾により「作業バランス自己診断」が開発されている．しかし，この尺度は個別事例の評価やセルフチェックとして臨床的利用に強みがある一方，集団を対象とした大規模調査での活用実績に乏しく，本邦において OB と健康に関する研究を進め根拠を構築するには，新たなツールが求められる状況にある．

そこで，筆者らは 2014 年に Wagman ら⁴⁾によって開発され，複数の翻訳版を持つ Occupational Balance Questionnaire (以下，OBQ) に注目した．OBQ は 11 項目 4 件法で構成され，サマリースコアの範囲は 0~33 点であり，スコアが高いほど良好な状態を示す．OBQ は障害の有無に関わらず回答可能であり，OB の概念を 1 次元で測定する．諸外国では，OB と関連を持つ変数の特定を目的とした疫学的な研究で利用されており^{5,6)}，本邦で OBQ が活用できれば，集団を対象とする研究実施の可能性が拡大し，OB の学術的な発展が期待できる．

本研究の目的は，OBQ の翻訳と日本語版 OBQ (以下，OBQ-J) の言語的妥当性を検討することである．

方法

翻訳の手続きは「自己報告尺度の異文化適応プロセスのためのガイドライン」⁷⁾に加え，Epstein ら⁸⁾の報告を参考に，順翻訳，統合，専門委員会でのレビュー，プレテストの手順

で行った。Epstein ら⁸⁾は、専門委員会の構成員が原語（英語）に精通している場合、逆翻訳の手順を追加しても利益は限られるとしてその手順の省略を推奨している。そこで本研究では適切な構成員を揃え、逆翻訳の省略による時間とコストの削減という利点を得る手順を選択した。

1. 順翻訳・統合・専門委員会でのレビュー

順翻訳では、日本語を母国語とし英語に精通する4名が、それぞれ独立に翻訳を行った。翻訳者4名は、大学院で作業科学の講義を受けOBに精通する作業療法士2名、OBに精通しない非医療従事者2名で構成した。統合では、翻訳者4名が議論を重ね、4つの翻訳を1つに統合した。疑問が生じた際は、OBQの開発者にその都度確認した。専門委員会は、順翻訳の翻訳者1名、方法論に精通している者1名、言語に精通している者3名、健康科学の専門家2名、計7名で構成した。専門委員会のレビューでは、原文、翻訳者4名の翻訳4例、統合された1つの翻訳を提示し、各項目の内容を検討して暫定版OBQ-Jの作成を行った。専門委員会の構成員の選考においては、英論文の執筆及び書籍の翻訳実績を求めた。特に言語に精通している3名については、英論文や翻訳の実績に加えて質的研究において豊富な経験を持つ者を選定した。なお母国語は日本語である。

2. プレテスト及び結果を踏まえた修正

プレテストの対象は、OBQの開発論文⁴⁾と同様に健常成人とした。募集方法も開発論文に倣って便宜的サンプリングとし、第1、2著者と関わりのある学生、同僚、その家族に回答を依頼した。対象者数はガイドライン⁷⁾を参考に30~40名とし、①暫定版OBQ-Jの項目への回答を「全くそう思わない(1点)」から「とてもそう思う(4点)」，②項目の理解度への回答を「全く理解できない(0点)」から「完全に理解できる(10点)」，③理解が困難と感じる項目については、自由

記述で理由を求めた。回答は Google form にて回収した (2021年10月24日-11月14日)。また、回答者のうち、許可が得られた者に対し、第1著者が対面または Zoom にて個別インタビューを実施した(同年12月19日-27日)。インタビューでは、質問紙全体の印象、項目内容や評定段階は理解できたか、回答時間は適切か、について回答を求めた。音声データは、対象者の許可を得て録音した。プレテスト後、指摘に基づいて項目内容を修正し、翻訳者と専門委員会の構成員全員に対して、項目内容の表現や原文との乖離はないか最終確認を求めた(2022年1月30日-2月19日)。本研究は、A大学研究安全倫理委員会の承認を得て実施した。

結果

1. 順翻訳・統合・専門委員会でのレビュー

順翻訳では、特に項目1"things to do"を「すること」と翻訳するか「すべきこと」とするか、意見が分かれた。統合の協議の段階で、開発者へ確認を行い、項目1の意味として「すべきことだけでなく、単にすることが多すぎず、少なすぎずあることが良い」と指摘があり統合に反映した。専門委員会では、日本語としての違和感や原文の意図が伝わる内容であるかについての意見が挙げられた。項目7, 11で用いられる"amount of time"を、「時間の量」と「敢えて訳出することに違和感がある」といった意見があり修正した。項目8の"take part in"を「参加する」と翻訳すると、「一般的に馴染みがなく作業療法の専門用語のように感じる」と指摘があり修正した。以上の手順を経て暫定版 OBQ-J を作成した。

2. プレテスト及び結果を踏まえた修正

プレテストは健常成人34名(男性14名・女性20名、年齢 39.7 ± 18.5 歳)が参加し、全員から項目及び項目の理解度の回答を得た。また、そのうち5名(男性2名・女性3名、年齢 43.8 ± 17 歳)に対して個別インタビューを1回ずつ実施し

た。実施時間は平均 32 分であった。項目の理解度への回答結果は、項目 1, 6, 8, 10 の中央値及び第一四分位数が他の項目に比べて低かった(表 1)。これらの項目の自由記載には、理解の困難さを訴える指摘があり、さらにインタビューでも同様の指摘が散見された。協議の上、項目内容の修正を行い、最後に翻訳者と専門委員会の構成員へ最終確認を求め、問題がないことを確認し、最終版 OBQ-J とした(表 2)。

考察と限界

本研究はガイドライン⁷⁾に従って実施し、加えて翻訳者や専門委員に関しては複数の人員が関与している。プレテストでは、翻訳尺度の潜在的な問題点を抽出し、原版から大意が外れないよう照合しながら修正を行った。これにより言語的妥当性が高まったと思われる。今後は、信頼性および妥当性の検討が望まれる。

文献

- 1) Meyer A: The Philosophy of Occupation Therapy. Am J Occup Ther 31(10): 639-642, 1977.
- 2) Dür M, Unger J, Stoffer M, Drăgoi R, Kautzky-Willer, et al: Definitions of occupational balance and their coverage by instruments. Br J Occup Ther 78(1): 4-15, 2015.
- 3) 小林法一：日常生活を構成する作業の意味に関する研究 - 義務的作業と願望作業による日常生活の類似化 -。(未発行版；広島大学大学院保健学研究科保健学専攻博士論文)。2004.
- 4) Wagman P, Håkansson C: Introducing the Occupational Balance Questionnaire (OBQ). Scand J Occup Ther 21(3): 227-231, 2014.

- 5) Borgh M, Eek F, Wagman P, Håkansson C: Organisational factors and occupational balance in working parents in Sweden. *Scand J Public Health* 46(3): 409–416, 2018.
- 6) Gonzalez-Bernal JJ, Santamaria-Pelaez M, Gonzalez-Santos J, Rodriguez-Fernandez P, del Braco BL, et al: Relationship of Forced Social Distancing and Home Confinement Derived from the COVID-19 Pandemic with the Occupational Balance of the Spanish Population. *J Clin Med* 9(11) :3606, 2020, doi: 10.3390/jcm9113606.
- 7) Beaton DE, Bombardier C, Guillemin F, Ferraz MB: Guidelines for the process of cross-cultural adaptation of self-report measures. *Spine* 25(24): 3186–3191, 2000.
- 8) Epstein J, Osborne RH, Elsworth GR, Beaton DE, Guillemin F: Cross-cultural adaptation of the Health Education Impact Questionnaire: experimental study showed expert committee, not back-translation, added value. *J Clin Epidemiol* 68(4): 360–369, 2015.

表1 暫定版OBQ-J項目の理解度(11件法)

項目	中央値[四分位範囲]
項目1	8.00[5.00-10.00]
項目2	9.00[6.75-10.00]
項目3	9.00[7.75-10.00]
項目4	10.00[8.00-10.00]
項目5	10.00[8.00-10.00]
項目6	8.50[5.75-10.00]
項目7	10.00[8.00-10.00]
項目8	9.00[6.00-10.00]
項目9	9.00[7.00-10.00]
項目10	8.00[5.00-10.00]
項目11	10.00[8.75-10.00]

表2 暫定版OBQ-Jの項目に対する指摘内容と最終版OBQ-Jの項目

自由記載およびインタビューによる指摘	修正および対応
項目1 「すること」が何を示しているのか曖昧	「すること」に対する修飾がこれ以上できないため修正せず
項目6 「身体的活動, 社会的活動, 知的活動」が分かりにくい	英英辞典の定義をもとに「身体を動かす活動, 人や社会と関わる活動, 頭を使う活動」に修飾した
項目8 「活動数」のカウントが分かりにくい	原版の意図を保つため修正せず
項目10 何の「エネルギー」が分かりにくい	「心と身のエネルギー」と加筆した

項目 (上:原文 下:最終版OBQ-J)

項目1	In a typical week, I feel there are just enough things to do. 普段の1週間は, 適度にすることがあると思う。
項目2	There is a balance between things I do for myself and things I do for others. 自分のためにすることと他者のためにすることのバランスが取れている。
項目3	I make sure I do things I really want to do. 本当にしたいことは必ずしている。
項目4	I balance the different kinds of activities in my life, e.g., work, household chores, leisure, rest, and sleep. 日々の生活の様々な活動(仕事, 家事, 余暇, 休息, 睡眠など)のバランスが取れている。
項目5	I have enough time to do the things that I must do. しなければならないことをするための時間が十分にある。
項目6	I have a balance among my physical, social, intellectual and restful activities. 生活の中で, 身体を動かす活動, 人や社会と関わる活動, 頭を使う活動, 休息のバランスが取れている。
項目7	I am satisfied with the amount of time that I spend on my various daily activities. 日々の時間の使い方に満足している。
項目8	In a typical week, I am satisfied with the number of activities that I take part in. 普段の1週間の活動数に満足している。
項目9	There is enough variation between things that I must do and things that I want to do. したいことと, しなければいけないことが適度にある。
項目10	There is a balance between activities that give me energy versus those that drain my energy. 心と身体のエネルギーを使う活動と得る活動のバランスが取れている。
項目11	I am satisfied with the amount of time that I spend relaxing, recovering, and sleeping. くつろいだり, 疲労回復, 睡眠にかけられる時間に満足している。